WORKSHOP DOCUMENT vol.03

2026.10.12
第3回 鹿児島県スポーツ・コンベンションセンター　ワークショップ

参加者・ゲスト・設計者で囲む座談会
施設に期待する役割は何か考えよう

鹿児島県では、新たな総合体育館である「スポーツ・コンベンションセンター」の整備に取り組んでおります。その一環として、ワークショップを開催しております。

第3回目のワークショップには51名のみなさまが参加してくださいました。設計業務公募型プロポーザル審査会の委員長を務められた古谷さんと委員の小島さんのレクチャーのあと、座談会という形で、参加者・ゲスト・設計者が輪になって、意見交換を行いました。



STEP 1 ゲストレクチャー



設計業務公募型プロポーザル審査会の委員長を務められた古谷 誠章(ふるや のぶあき)さんと委員を務められた小島 規美江(こじま きみえ)さんをゲストにお迎えしました。お二方にはそれぞれ建築の専門家としての目線、MICEの専門家としての目線で建物に期待する役割についてレクチャーを行っていただきました。

古谷 誠章さん



古谷さんがレクチャーしている様子

古谷さんからは、設計者の提案に期待している点や、ご自身で行われたワークショップの事例についてご紹介いただいたほか、住民参加型のワークショップを行う意味やその効果についてご説明いただきました。

小島さんからは、MICEは平日に開催することが多いため平日の施設活用にも繋がり、経済的な効果が期待できるということや、地元企業や大学に有益な情報をもたらしてくれるという利点についてもご説明いただきました。

小島 規美江さん



小島さんがレクチャーしている様子



レクチャーを聞く参加者の様子



メモをとる参加者の様子

STEP 2 座談会

約20名の参加者とゲスト・設計者が輪になって、事前に集めたテーマに沿って意見交換を行いました。高校生を含む様々な年代から意見をいただきました。





こうなって欲しい！

現座になり意見交換している様子

▼意見交換内容(抜粋)

1 にぎわいの作り方

スポーツをする人、見る人、支える人それぞれに対応した施設設計が大切。

各スポーツ大会の運営上、大小様々な部屋が必要になると思う



高校生が発表している様子

2 人の流れをどう作るか

他施設では歩いて来場することが定着した事例もある。公共交通機関利用促進や周辺駐車場との連携も必要。

大規模イベントの際に人・車の流れを配慮した計画にする必要がある。

3 施設を使い続けるための工夫

開放とするイメージがある平日の運用を考えていく必要がある。

高校生向けのイベントを開催してほしい。

施設の魅力を伝えるため、ウェブサイトやSNSなどを活用し、計画段階から積極的に情報を発信することが大切。

4 鹿児島らしい施設とこれからの設計プロセス



桜島を望める立地を活かし、景観そのものを施設の魅力にすることを期待したい。

今後も様々な県民が参加できるよう、ワークショップの様子をオープンに発信することが大切ではないか。



設計者とゲストが意見交換している様子

アンケート結果(回答25件)

Q ワークショップはいかがでしたか？

大変満足した	15
満足した	9
満足しなかった	0
どちらでもない	1

Q 完成したら利用してみたいですか？

ぜひ利用したい	20
機会があれば利用したい	5
利用しないと思う	0
わからない	0

今回のワークショップについて、9割を超える方が「大変満足した」「満足した」とご回答いただき、次回以降のワークショップも約9割の方が「参加したい」とご回答いただきました。
また、回答されたすべてのみなさまがスポーツ・コンベンションセンターが完成したら「ぜひ利用したい」「機会があれば利用したい」とご回答いただきました。

他にもみなさまから様々なご意見やご感想をいただきました。

様々な手法でワークショップの開催をPRしてほしい

ただかっこいい建築ではなく、愛着の持てる建築であって欲しい

MICE誘致の有用性がよくわかった

(公共施設の建設における)ワークショップの意義が理解できた

参加者のみなさまからのメッセージ！



最後に、参加者のみなさまに任意で「スポーツ・コンベンションセンターがどんな施設になることを期待しますか？」というメッセージをいただきました。